



令和6年度
事業報告

社会福祉法人 容風会
おきなのだ

特別養護老人ホーム おきな杜

2024スローガン

全員で「自立支援介護施設 おきな杜」を完成させます。

令和6年度 年間総括

		目標に対する取組・成果・実績
目標1	住民様・ご家族の「夢」や「希望」を叶えるために自立支援介護に取り組めます。	①ユニットスタッフと多職種との連携により、多くの住民様が「夢カード」の目標を達成することができました。 ②「家に帰りたい」という住民様の願いに対しては、自立支援介護の視点から多職種が連携を取り、外出に向けたリハビリ計画を立て、実際にご自宅への外出を実現することができました。 ③一部の「夢カード」に記載された内容については、自立支援介護との直接的な関連づけが難しく、対応に難しさやハードルの高さを感じる場面もありました。
目標2	「医療体制の強化」入院させない特養を目指します。	①1年間の入院者数は43名(前年度49名)、入院日数は673日(前年度900日)となり、一定の減少は見られましたが、目標としていた入院件数の大幅な削減には至りませんでした。 ②嘱託医2名体制を敷き、日常的な健康管理や早期発見・早期受診に努めました。しかしながら、一部では「様子見」の期間が長くなり、受診が遅れて症状が悪化するケースも見受けられました。 ③看護師が夜勤に入るようになり、夜間帯の緊急対応がスムーズに行えるようになりました。
目標3	介護ロボットやICT等の導入を検討し、業務改善に引き続き取り組みます。	①見守り機器として、全床に「眠りスキャン」を導入しました。これにより、終末期の住民様の状態把握や睡眠リズムの可視化が可能となり、より適切な援助方法を検討・実践できるようになりました。 ②スタンディングリフト(Hug)の活用により、移乗・入浴介助が安楽に行えるようになり、また、床走行リフトの導入により、従来2名での介助を1名で対応できるケースが増え、安全性と業務効率の向上が図られました。 ③新しい休憩室の設置により、介護スタッフの休憩はしっかり確保できるようになりました。

年間総括

令和6年度は、ICT機器の活用と業務改善の取り組みを進めた年になりました。眠りスキャンの全床導入により、住民様の睡眠状態の早期把握が可能となり、夜間巡回回数が減少し、その結果、夜勤職員の休憩時間が確保され、夜間業務の負担軽減につながりました。また、床走行リフトの導入により従来2名で行っていた介助が1名で可能となり、安全性と効率性の両面で大きな業務改善が実現しました。一方で医療体制においては課題も残りました。入院者数は43名と依然として多く、その内24名が救急搬送での入院、6名が感染症による入院となりました。また、嘱託医の交代による新体制のもと、嘱託医・看護師・ユニットスタッフ・多職種で連携し、健康状態の維持向上に努めました。しかしながら、入院者数の大幅な削減には至りませんでした。稼働率は95.48%(前年度:94.8%)、退居者は32名(前年度:28名)。要因は長期入院、看取りによるものでした。感染症クラスターが4回発生し、2～3月には感染症胃腸炎の感染が拡大するなど対応に追われる場面もありました。初動対応の遅れや職員間の認識の甘さが感染拡大を招いた点は今後の課題です。次年度は、重度化防止と医療体制の更なる強化を目指し、入院者数の減少に取り組めます。

ショートステイ おきな杜別館

2024スローガン

Let's move forward together！ 自分らしく活気溢れる毎日を！！

令和6年度 年間総括

		目標に対する取組・成果・実績
目標1	あなたの夢を叶えます。	①利用者様との積極的なコミュニケーションを通じて、夢や希望を具体的に聞き取り、それを実現するための企画を立案する事が出来ました。 ②スタッフ一人ひとりが「その人を知ろう」という気持ちで関わりを持った事で、以前よりもより深くご家族様やご利用者様に対して夢の実現に向けてのアドバイスを行う事が出来ました。 ③相談員を中心にご家族様との関係性を構築し些細な事でも情報交換を行う事が出来ました。
目標2	業務改善に取り組めます。	①ケアカルテやネオスケアなどのICTツールを導入し、「やってみよう」を合言葉に業務改善に取り組み、記録作業や見守り業務の効率化を図り、スタッフの業務負担軽減に繋がりました。 ②スタッフ間同士で分からない事は教え合い、知識を深めていきましたが、積極的に研修への参加を促す必要があったと感じました。 ③報連相を徹底して、一人ひとりに合った細やかなサービスを提供する事が出来ました。
目標3	安心して過ごせる、安らげる空間を作ります。	①ご自宅での様子等を積極的に聞き、ご利用者様が心地よく過ごせる環境作りに注力し実行できました。 ②コミュニケーションを大切にし、安心感してお過ごしいただけるようスタッフ一同が積極的に働きかけ、安心して過ごせる空間づくりに努めました。 ③おもてなしを徹底する事で、今までお泊りに拒否があったご利用者様も「おきな杜なら良い」と言って頂け、利用継続に繋げる事が出来ました。

年間総括

令和6年度は「あなたの夢をかなえます」「業務改善に取り組めます」「安心して過ごせる空間を作ります」の3つの目標のもと、利用者様とご家族様に寄り添った支援に努めました。利用者様の夢や希望を丁寧に聞き取り、実現に向けた企画を実施したほか、スタッフ一人ひとりが「その人を知る」姿勢で関わることで、より深い支援や信頼関係の構築につなげることができました。ICTツールの導入による記録・見守りの効率化や、スタッフ間での学び合いも進み、業務改善とサービスの質向上を図ることができました。また、ご自宅での様子を踏まえた環境整備や、おもてなしの意識を徹底することで、安心して過ごせる空間づくりにも成果があり、宿泊に抵抗のあった方の利用継続にもつながりました。令和6年度の新規利用者は41名、利用終了者は25名と多くのご縁に恵まれました。しかしながら平均稼働率は92.7%、目標稼働率95%には到達しませんでした。今後も丁寧に誠実な対応を心がけ、「その人らしさ」を尊重し、安心・信頼されるショートステイの実現に向けて取り組んでまいります。

おきなのだいサービス いきがい元気塾

2024スローガン

最高のチームで、みんなを元気に！みんなを笑顔に！

令和6年度 年間総括

		目標に対する取組・成果・実績
目標1	みんなでやります！ 自立支援介護！	①水分・歩行・認知症ケアを中心に、自立支援介護の基本ケアが全体で取り組んでいけるようになりました。 ②個別ケアの実践がスムーズになりました。利用者に対する、もっとこうなるときっと良くなる、今より良い暮らしとなる、在宅生活が楽しく続けられる、と前向きな捉え方で個別ケアの実践が行なえました。 ③記録の漏れや、手書きやメモの多さは課題となっており、記録管理の充足が、よりスムーズな自立支援介護の実践へととなるため、今後も引き続きスタッフ一人一人のスキルアップ、意識向上を目指します。
目標2	業務整理と業務改善、 生産性向上でチーム力 もアップ！	①利用者のできること、主体性を引き出すため、選択活動の充実に力を入れました。活動の幅が広がり、活動参加を通して、利用者の交流の幅も広げられました。 ②③ドライブボスの導入スタートで、送迎表作成にかかる時間の短縮が図れました。次は、誰もが使いこなせる！を目指していきます。令和6年度は新体制でスタートしましたが、リーダーを中心に、話し合いと前向きな姿勢で業務改善や業務整理、課題解決ができるチーム体制が築けました。
目標3	コミュニケーションで相手を繋ぐ、 相手と繋がります！	①②③感染対策から控え目になっていた交流や活動の機会が増やせ、利用者同士、利用者とスタッフの繋がりが深められました。毎月どんぐりカフェの開催や3デイ合同企画、3デイリーダー会議の開催など、元気塾のみでなく、法人内、他部署と繋がる場が多く持て、連携の図りやすさへ繋がりました。1年間毎月開催した家族参観日では、元気塾を知っていただく機会、家族同士の交流の機会となり、繋ぐ・繋がる良い機会となりました。ケアマネや他事業所との連携強化と、インスタ活用による外部発信の継続ができました。

年間総括

令和6年度は、自立支援介護を武器にし、利用者のできることを引き出す、もっと元気にする、ご家族や他事業所と連携を図ることが、当たり前になるようになりました。一人ひとりのスキルアップや記録管理など、残る課題はありますが、何事にも前向きに取り組むチーム体制が築けました。感染対策で消極的になっていた、交流や活動の幅を広げることに力を入れることができ、利用者の自己選択、自己決定の場を増やすことが出来ました。ビストロ元気塾やパティスリー元気塾、家族参観日やどんぐりカフェと、利用者はもちろん、職員も家族も楽しめる機会を増やすことができました。入所や長期入院の増加など稼働率の安定確保に難しさは感じますが、ホームページやインスタを見て、県外からデイサービス職員の方々の見学もありました。外部への発信ができていること、やっている活動の魅力が伝えられていることに、自信ややりがいを感じる事ができました。令和7年度は、これから加速するICT化に対応できる職員の育成やチーム作り、業務改善や業務整理を行いながら、稼働率アップと元気塾のミッションである、どこにも負けない「認知症ケア・重度化防止」の対応が出来る事業所を目指します。

おきなのだいサービス やりがい文化村

2024スローガン

トライ(やってみる)＆ライズ(立ち上がる)

令和6年度 年間総括

		目標に対する取組・成果・実績
目標1	脱!!お世話型介護 自立支援介護の完全 定着化をやってみる。	①2・3か月に一度のペースで症例に取り組んできました。ケアカルテに日々の記録を落とし込み、そこから各自がアセスメントをして、自立支援介護を手段とし捉え、日々のケアの質の向上に繋げることができました。 ②③ケア会議では担当スタッフを中心に、1週間毎の目標・振り返り・次回への課題を明確化していけるような仕組みが整いました。4つの基本ケアを中心とした視点で日々モニタリングをすることができるようになり、事例対象者以外へも気にかけていることができます。
目標2	脱!!定番化 新しい文化村のスタンダードをやってみる。	①月刊デイへの定期的な応募をおこなってきました。年間通じて2度、「自慢のレク」部門で受賞できました。またInstagramでの発信にも積極的に取り組み、活動の様子を発信しPR活動にも尽力しました。 ②③外出企画を再始動。機能訓練の成果を見える化した企画は好評で、今後も定期的に企画していきます。また、年間を通じ外部講師による本格ワークショップも継続し様々な作品作りに挑戦してきました。作品作りのみならず、運動メニューも個々に寄り添ったメニューの提案を機能訓練指導員中心に発信しています。
目標3	脱!!属人化 スタッフのワークスタイルの 見直しをやってみる。	①②脱!属人化を目指し、業務の分散化を行いました。その中でも年度末に導入した「DRIVEBOSS」は、今まで課題であった送迎ルート作成を誰もが楽に作成できるツールです。不慣れや苦手意識が残るものの属人化していた「送迎表をアナログに組む業務」から脱却できた成功例です。また、毎月のデイ会議では、細かな業務改善を一人ひとりが発案し、定期的な業務の見直しを全体で行い、3M(ムリ、ムダ、ムラ)が改善。 ③苦情ゼロでしたが細かな気遣いやおもてなしの心を引き続きお互いに伝い合える関係でいたいと思います。

年間総括

自立支援介護の集大成の1年でした。文化村からはマイスター1名・エキスパート1名の合格者が出ました。合格者2名は今後の法人の自立支援介護をリードしていく中心メンバーとなります。文化村としても、自立支援介護を手段として、その方に対するケアの方法やサービスの向上を目指した支援ができるようになっていきます。また、外部にて取り組み事例を発表する場に2度参加し、文化村での成功事例を社外へ発信しました。

課題としては、ここ数年目標稼働率90%に達しておらず、80%後半を推移しています。令和5～6年度と長年文化村を利用されてきた方が入所やご逝去に伴い利用終了となりました。外出企画や調理企画、ワークショップの開催等、活動も増やしてきましたが、開業して14年目を迎えた今年、事業所ミッションである『生涯学習・大人のカルチャーセンター』に初心に戻り取り組み、目標稼働率達成に向けチーム一丸となります。

令和7年度は、ICT化を加速させるための、音声入カソフト「ハナスト」の導入や、生産性向上に向けた「ハカルト」の活用をチーム全体で行い、ICTによる業務効率を上げ、利用者に向き合う時間を増やし、スタッフにとっても働きやすい職場の確立を目指していきます。

おきなのだいサービス OKINA de ARUKU

2024スローガン

やれば、できる！！バモス！（Come on!）

令和6年度 年間総括

		目標に対する取組・成果・実績
目標1	運動しよう！バモス！（Come on!）	①屋外歩行や運動要素を取り入れた季節のイベントを開催し、楽しく運動に取り組んで頂けるような企画を実施しました。また、姿勢や歩幅を意識した歩行となるよう声かけを行い、成果のフィードバックを行いました。 ②体重管理の必要な方には体重測定から食生活や運動の指導を行い、ダイエットに繋げることができました。 ③旅行や外出の予定など個人個人の目標を聞き取り、実現できるよう運動内容の見直し・自主運動の指導等を行いました。実際に「旅行に行ったよ！」と目標達成の声も頂くことが出来ました。
目標2	自立支援介護を極め、二刀流のデイを目指します。	①水筒の持参をお願いし、帰るまでに飲み切ることを目標に説明・声掛けを継続してきました。利用者様同士で声を掛け合う姿が増え、水筒を大きなものに変更されるなどその重要性が浸透してきました。 ②自宅での水分・食事・排泄・歩行状況の把握に努め、デイでの短い時間の中でも必要なケアを行い、成果に繋がりました。 ③水筒やクッション、かばんなど自身で取りにいける配置や声かけを行い利用者様の自主性を高めました。
目標3	地域一番のデイサービスを目指します。	①利用者様のご希望も取り入れながら季節のイベントを企画し、満足度向上に努めました。また、イベント毎の飾りつけや掲示、お花を飾るなどおもてなしにも力を入れました。 ②知名度UPのため、週1回Instagramの投稿を継続し、利用者様が運動されている姿やイベント風景を発信しました。その結果、徐々にフォロワー数を増やすことに成功しました。 ③トルトやPITの動画解析ソフトを活用し、歩行姿勢や足の運び方など細かな指導を行い、改善に繋がりました。

年間総括

昨年、アルクは自立支援介護への挑戦から短時間デイも実践できることを学び、今年度はその定着に取り組んできました。その結果、スタッフの声掛けや促しがなくとも自主的に水分摂取をされ、自宅でも運動や散歩に取り組む方が増えてきました。

また、園芸や季節のイベントを増やすなど、マンネリ化防止に努め「行きたくなる」「休みたくない」デイサービスを目指しましたが、なかなか稼働率向上までには繋がりませんでした。

4月よりOKINAdARUKU Renewalと題して、プログラムの一新を進めています。利用者様ごとに合わせた個別プログラムや目標に沿った屋外歩行の機会を増やしていきます。季節のイベントも毎月企画し、運動だけでなく社会交流の場としても「休みたくない」と思って頂けるデイサービスを目指していきます。

介護相談処(居宅介護支援事業) 地域介護支援センターおきな杜

2024スローガン

利用者・家族・地域のために良いと思うことをやります！

令和6年度 年間総括

		目標に対する取組・成果・実績
目標1	地域包括ケアシステム構築に向け、地域における存在感を放っていきます。	①市民センターでのふれあい委員会にて介護教室を開催し、地域の方々に介護保険申請の流れや、利用できるサービスの説明等を行い、介護保険制度の周知をしました。 ②積極的に医療との連携を図り、利用者の状態の把握、今後の支援の方向性等を医療関係者と協議しました。入院時の情報提供や退院前カンファレンスの参加等も、積極的に行いました。 ③ふれあい委員会等に参加し、地域の方々との交流を図りました。
目標2	改定された介護保険制度や適切なケアマネジメント手法の習熟と活用を行います。	①社内外の研修に参加し、ヤングケアラー、生活困窮者支援等、多制度についての知識習得に努めました。 ②困難事例や支援の進め方について等、事業所内で相互に支援相談や使えるサービスについての情報交換を行い、ケアマネジメントの質の向上に努めました。ICT活用についても協議を行ってきました。 ③介護保険制度を理解し、利用者が住み慣れた地域で過ごすために必要なサービスの調整に努めました。
目標3	利用者の自立支援に向けたケアプラン作成に取り組みます。	①これまでの生活歴や本人の生活に対するニーズの把握に努め、アセスメントや毎月のモニタリングにて、利用者が望む生活に近づけるようなケアプラン作成に努めました。 ②現在の能力が維持でき、できる能力を損なわない様に努め自立支援に向けたケアプラン作りを行いました。 ③各関係機関との連携を密に図り、小さなことでも情報共有できるように努めました。SNS等を活用して連携を迅速に行い、スムーズに支援に繋ぐことができました。

年間総括

団塊の世代が後期高齢者となる2025年問題を目前に控えたこの1年、新規相談者の高齢化にも直面してきました。介護保険制度を知っているが今まで利用してこなかった方や、介護保険制度とはどのようなサービスがあるのかを知らない方など様々な相談がありました。相談の中に、貴地区の民生委員さんからの相談もあるなど、地域介護支援センターおきな杜として、少しずつ地域に周知していただけるようになってきているのではないかと感じています。住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、事業所全員がケアマネジャーとして必要な知識の習得に努めました。

これからも、ご自宅の生活に困った時、家族の介護が必要になってきているがどうしていいかわからない時、困りごとに直面した方々の助けとなれるように、介護保険制度についての講習会の定期開催等を行っていきたいと思います。地域の人に寄り添い、住み慣れた地域で安心して暮らして行けるように、質の高いケアマネジメントを実践し、信頼され相談を受けることができる「介護相談処」となるよう、今後も全員で努力していきたいと思います。

経営管理本部 事務局

2024スローガン

事務局大改造！事務系DX推進を本気でやります！

令和6年度 年間総括

		目標に対する取組・成果・実績
目標1	総務系DXに取り組み、職員の手続きも省略化！働きやすい職場づくりを目指します。	①事務局内のスタッフの入退職が後を絶たず、取り組みがリセットされることが数年続き、落ち着いた形での業務改善への取り組みがなかなか出来ていません。そんな中でも、ピンチはチャンスだととらえ、常に業務内容の見直し、効率化アップ、固定概念にとらわれない取り組みを重ねてきました。 ②③具体的には職員の社会保険手続きをオンラインでおこない、経理業務のアウトソースにも着手しました。バックオフィス分野で効率化を図れるものは今後もどんどんおこなっていききたいと思います。
目標2	サービスの質の向上、処遇改善、生産性向上に向け各部署と連携を図ります。	①②③令和6年の介護業界における大きな動きのひとつとして「生産性向上」への取り組みがクローズアップされました。法人でも、検討委員会が数多く開催され、何をいつどのように導入すればICT化・DX化が図れるか、協議を重ねてきました。前年度(令和5年度)がMAXで補助金を獲得したため令和6年度は思うように補助金の活用ができませんでした。引き続き、補助金・助成金への情報にアンテナを高くし、各部署と連携し、導入方法や時期について効率よく運用していきます。
目標3	安定的な経営と事業活動を通じた持続可能な社会の実現に取り組みます。	①③令和6年度は、職員の補充(職員紹介手数料)および一時的な職員配置(職員派遣費用)において年間に約1,300万円が投じられ、経営的には非常に苦しい結果となりました。また、各事業所において稼働率の低迷が続いています。安定的な経営をおこなうためには、やはり「人材の確保・定着」がカギとなることを痛感した一年となりました。 次年度は、より人材育成に取り組み、働く環境の改善、処遇の向上を重要課題としたいと思います。

年間総括

令和6年度は、ここ数年の中でも退職者が多く、その補充に苦勞し、退職事由についても痛みをとまなう一年となりました。しかしながら、そのような状況下でも新入職員の方も多くお迎えでき、また社内の若手スタッフが「もっと自分たちの法人を内外にアピールしよう！魅力を発信しよう！」と「おきな杜リクルート部」を立ち上げたり、全部署でInstagramなどのSNSを使い、利用者様だけでなく、スタッフの笑顔も発信するなどの活動をおこないました。今年度スタートした『スタッフの髪色・服装の自由化』などの取り組みも含め、働く私たちの環境を自分たちで良くしていこう、それらを発信していこう、ということに取り組んだ一年となりました。

経営面は、収支において大きなマイナスとなりました。ICT化に向けた機器およびシステム・ソフトの導入などが始まっています。この支出はしばらく続きます。これからの介護業界はICT化が進まなければ生き残れません。遅れを取らぬよう取り組む反面、経営面では、これらの支出がどう活かされているのかを見極めなければいけません。事務局では引き続き安定的な経営がおこなえるよう、増収増益を目指します。

事故防止対策委員会

2024スローガン

ヒヤリハットを見逃さない！ 住民様・利用者様の安全な生活を守ります！

令和6年度 年間総括

		目標に対する取組・成果・実績
目標1	ヒヤリハットを見逃しません。	①②令和6年度は、ヒヤリハット件数2478件で、内訳は施設:2087件、3デイ:391件でした。前年度より、総数は+244件で、全体的に変化に気づく力、気づきを記録に残す意識は高まっています。今後進化していく、ICT化よりさらに気づきを記録し、発信、情報共有することで事故に繋げない仕組み作りを目指します。 ③今年度新しいシートを使用し、各部署で情報入力することで振り返りや分析の機会となりましたが、やや負担となる作業になりましたが委員会で振り返る事で、全体の情報共有や新たな対策を講じる機会が持てました。
目標2	事故防止に取り組みます。	①②ヒヤリハットの集計や分析、対策を講じる仕組みづくりはできましたが、令和6年度は、事故発生件数は125件で、内訳は施設:86件、3デイ:39件でした。前年度より、総数は△47件でした。施設では、転倒事故が一番多く、病院受診する事故は6件、その内4件が骨折に伴う入院となってしまいました。 デイでは、39件のうち車両事故が20件と半数を占めかなりの修理費用がかかってしまいました。 ③発生した事故に対する検証や改善策の周知はもちろん、委員会で経過を追っていく事ができました。
目標3	事故防止に繋がる整備や研修、教育を行います。	①マニュアル等の更新は出来ていませんが、今後も見直しや更新を図っていきます。 ②起きてしまった事故を事例として用い検証したりグループワークをしたり、動画を活用し、必要なテーマの学習を行うことが出来ました。 ③施設、3デイ合同開催で行うことで、情報共有できたり、課題解決へ繋がる新たな発見ができる1年となりましたが、内容が薄くなってしまうことも課題となりました。

年間総括

ヒヤリハット、事故発生状況の新たなシートを活用し、それぞれの部署で情報をまとめ入力し分析の機会を持つ、取りまとめたものを委員会で共有したり、分析することで、新たな対策を講じることができ、事故防止に繋がる仕組みづくりが出来ました。
令和6年度も、事故発生はもちろん、入院を伴う事故発生は生じてしまい、事故ゼロとはなりません、今後も防げる事故は防ぐ、起きてしまった事故は、同じことが起きないようにすることで、住民様、利用者様の安心と安全が守れる組織作りを目指します。
令和7年度は、施設部門、デイ部門で分かれて委員会の開催を行うことで、令和6年度に作った仕組みを活かし、さらに深い内容で委員会や学習会の開催を行い、事故発生防止及び再発防止、より質の高い介護サービスの提供を目指します。

栄養管理・口腔ケア委員会

2024スローガン

元気の源は食事。口から美味しく食べ、しっかり栄養を摂る！

令和6年度 年間総括

		目標に対する取組・成果・実績
目標1	食事内容と食形態を見直し、経口より栄養を摂取し、栄養管理を強化します。	①住民様の食事形態が適切であるか、多職種と常に協議し、見直しを行いました。 ②「常食化」の取組みの一つとして、食事形態を1ステップ上げるために、特養・デイサービスで、対象事例を数名挙げて、口腔体操や嚥下訓練に取り組み、ミキサー食からソフト食へ移行できました。 ③令和6年度は、きざみ食をソフト食に変更しました。取組み当初は1日2～3品しか提供できませんでした。現在は9割ほどのメニューでソフト食を提供しています。定期的に試食会も実施しました。
目標2	歯科と連携をとり、口腔衛生・嚥下機能強化に取り組みます。	①新しい歯科が参入し、口腔衛生管理加算取得に向けて数回話し合い、準備を進めましたが加算の算定までに至りませんでした。 ②新たな取組みとして、職員へ「口腔ケアについて」のアンケート調査を実施しました。 ③歯科医による「口腔ケア」の学習会は2回予定していましたが、2回目は特養で感染症が拡大したため、10月のみの開催となりました。
目標3	季節に応じた行事食、楽しい調理企画を実施し、楽しい食事時間を提供します。	①季節を感じられるような行事食を毎月提供しました。下半期よりご当地グルメ月1回提供し、大好評でその日の残食はかなり少なくなっています。 ②2月にデイサービスでランチバイキングを5年ぶりに開催しました。大変好評でした。 ③デイサービス、特養で様々な調理企画が取り組まれました。デイサービスでは、昼食やおやつ作りが毎月実施され、特養では鍋パーティーやケーキ作りなど楽しい企画が実施されました。

年間総括

令和6年度の取組みとして目標を達成できたことは、「きざみ食の廃止」「ソフト食の開発」です。ソフト食は見た目もよく、今まで摂取量が少なかった方が、全量摂取されると、きざみ食を提供していた時より喫食率が上がりました。ミキサー食からソフト食へ食事形態をワンステップ上げる方もいました。鶏肉や魚などは酵素液に浸漬してやわらかく調理し食べやすくなりましたが、すべての食品に使用するのは困難な面もあり今後の課題です。コロナの影響で開催できなかったランチバイキングを5年ぶりに開催しました。デイサービス、ショートステイのご利用者様に楽しんでいただきました。新たな取組みとして「ご当地グルメ」を月1回提供することができました。住民様、利用者様には好評でした。口腔ケアについては、新規の歯科を中心に学習会や加算取得に向けて取り組みましたが、加算の算定までにはいりませんでした。スタッフへ口腔ケアについてのアンケート調査を行いました。回答率は100%で、スタッフの口腔ケアに対する意識の高さがうかがえました。このアンケートで知識や技術面、口腔ケアに費やす時間の制限など課題も明確になりました。今後は課題の改善に向けた取り組みを行って行きたいと思います。

身体拘束・虐待防止委員会

2024スローガン

スタッフ自ら学び、身体拘束・虐待をしない組織作り！

令和6年度 年間総括

		目標に対する取組・成果・実績
目標1	スタッフ自ら学び、身体拘束・虐待は行いません。	①指針、マニュアル、動画を使用し、学習会にてスタッフ自ら学ぶ場所を提供し、身体拘束・虐待について周知徹底しました。 ②3つのロック(フィジカル、スピーチ、ドラッグ)をゼロにすることを目指し学習を行いました。 ③どのような行為が身体拘束や虐待になるかを学習し、身体拘束や虐待のない環境作りを行いました。
目標2	スタッフの健康状態、メンタル面に気付きやすい環境作りを行います。	①スタッフが意見や不満を言いやすい職場環境作りに努めました。 ②スタッフ間のコミュニケーションを活発に行い、ストレスゼロを目指しました。 ③学習会でストレスを溜めない方法やストレス発散について発信を行いました。
目標3	職場内及びスタッフと利用者様やそのご家族間のハラスメントについて学びます。	①ハラスメント、プライバシー保護について、指針・マニュアル等を使用し、学習を行いました。 ②ハラスメントのリスク要因について、動画等を活用し学習しました。 ③ハラスメント対応・対策について、学習会にて周知しました。

年間総括

令和6年度は、動画視聴や指針・マニュアルを活用して、3ヶ月に1度学習会を実施しました。令和6年度も身体拘束・虐待ゼロを継続することができました。身体拘束・虐待は住民様、利用者様の尊厳を無視する行為であり、絶対に行ってはいけないものです。身体拘束・虐待は、「人権侵害」とあるという視点を持つことが重要です。全スタッフが常にそのことを意識し、身体拘束・虐待がない環境作りを行いました。少しでも身体拘束・虐待発生リスクを減らすために、見守りセンサーを活用し、スタッフの介護疲れやストレスを減らす環境作りを行いました。今後も質の高い学習会を提供し、身体拘束・虐待ゼロを継続していきます。また、施設(介護・医療・福祉施設など)におけるハラスメントには、職員間だけでなく、利用者・家族との間にもさまざまな形があり、深刻な問題となることを事例を交え学習会で周知しました。

感染症・食中毒予防対策委員会

2024スローガン

感染予防対策を徹底し、感染症から住民様・利用者様を守る

令和6年度 年間総括

		目標に対する取組・成果・実績
目標1	新型コロナウイルス感染予防対策を徹底し、事業継続計画(BCP)を定期的に見直します。	①コロナウイルスが2類から5類に引き下げられ、対応が変わったため、事業継続計画(BCP)を見直し、簡易版を改定しました。それと同時に、職員の罹患時の出勤等の内容も見直し改定しました。 ②感染対策の必要物品については、定期的に確認し補充しました。 ③8月・2月・3月コロナ感染(7ユニット)で発生、2月・3月には感染症胃腸炎が2ユニットで発生、住民様・スタッフが多く感染し、保健所に報告、感染対策の指示を受けて対応しました。
目標2	感染症や衛生管理の学習会や実技研修を定期的に行います。	①「食中毒について」「ノロウイルス食中毒」「感染症発生時の対応」「スタンダードプリコーション」についての学習会を開催しました。 ②BCP訓練は、2回行いました。実際に行った感染対策の動画を視聴し、正しいゾーニングの仕方について学びました。 ③个人防护用具(PPE)の着脱手順については、学習会の終了前に参加者全員で演習しました。
目標3	感染症等の最新情報を把握し、予防や早期発見・感染拡大防止に努めます。	①コロナ対応マニュアルやPPEの手順については、最新情報を常に把握し、分かりやすい動画を学習会で活用しました。 ②住民様の異常の兆候を早く発見できるように努めました。コロナや感染症胃腸炎で状態が悪化した人は、救急搬送の対応を行いました。 ③感染症胃腸炎の感染力は強く、万全の対応ができなかったため、多くの感染者が発生してしまいました。

年間総括

令和6年度は、コロナ感染が4回(8月に2回、2月・3月に1回)発生しました。2月・3月は、感染症胃腸炎で多くの民様・スタッフが感染しました。特に感染症胃腸炎は感染力が強く、感染対策も後手後手となり感染拡大を食い止めるのは容易ではありませんでした。拡大の原因は、初動対応の遅れが原因で、的確な指示が出せない、現場も指示待ちの状態でした。感染後、状態が急変し救急搬送する方や隔離機関が終了した後も後遺症でなかなか体調が戻らないなど、感染症の脅威を思い知りました。

令和7年度は、この反省を元にあらゆる感染症に的確に対応できるように学習、演習を強化して行っていきたいと思います。安心して生活していただけるように感染症・食中毒予防対策委員会が中心となって取り組んでいきます。

おもてなし委員会

2024スローガン

おきなプライドを胸に、おもてなしの真髓を極めます。

令和6年度 年間総括

		目標に対する取組・成果・実績
目標1	おきなプライド5-15の教育を致します。	①おきなプライド5-15をスタッフ一人ひとりが、意識して業務に望むようになりました。1年間、Instagramの発信もおきなプライド5-15に合った内容を投稿することで意識付けにもつながりました。 ②笑顔の多い職場環境を一人ひとりが意識して作れていました。令和6年度は研修に参加する機会も法人として増え、各自自己研鑽にも励んだ1年でした。 ③役職者の言動や行動は影響が大きく、完璧ではないにしても意識して取り組む姿がみられました。
目標2	環境もおもてなし致します。	①5S強化月間の発信は行えませんでした。定期的な大型ごみの回収などに伴った清掃期間を設け、その都度、自分たちの職場環境を整えることができました。 ②今年も秋祭りの開催に向け、施設部門・地域部門それぞれで環境のおもてなしを実行致しました。今年度のテーマに沿った飾りつけや衣装で、法人スタッフ一丸となって最高の「秋祭り」の開催が無事に行われました。 ③今後、外部からの見学も増えてくる中で、法人職員全員が気持ちの良い対応ができることが課題です。
目標3	おもてなしを推進し、おもてなしを考えます。	①おきな杜の身だしなみの見直しを行いました。緩和するにあたり、業務に支障がないようにすること、相手に不快感を与えないようにすること、清潔感があることをルールとして服装自由化としました。 ②③信頼・連携・コミュニケーションを大切に、スタッフ間での報告連絡相談をマメに行いチームケアに取り組んでいます。お互い様の気持ちで助け合う気持ちをどの部署でも持ち合えています。

年間総括

令和6年度のおもてなし委員会の取組みの1つとして、『Instagramの発信強化』に各部署取り組んできました。おきなプライドインスタコンテストを開始した8月時点ではフォロワー123名でしたが、今年4月には1700名を超えるフォロワーに増加！！各部署、それぞれの取組みや様子をどんどん発信。またリクルートの面でも「インスタ見て楽しそうと思ってきました」「服装自由化を見て、職員の方が楽しそうに働いているのを見てきました」など、一定の効果もありました。Instagramで各部署が発信することで、特養側がデイサービスの取組みを知ったり、逆もあったりと、スタッフ側にもお互いの部署での取組み内容を知る機会になりコミュニケーションの一環になるなどいい効果も見受けられました。SNSを今後も活用しながら、おきなプライド5-15の更なる浸透に期待を込めて、法人全体で盛り上げていきます。また、昨年より他施設からの見学や訪問が増えたり、面会の緩和等に伴い、家族や外部の方の出入りが増えました。改めて、5Sの徹底とスタッフ一人ひとりの「おもてなし」をより一層いいものにしていく為にも、今年はスターフライヤーよりおもてなし再教育の研修を予定しています。また定期的な「おもてなし」学習会を開催し、地域No.1のおもてなしが出来る施設を目指します。

医療・介護連携委員会

2024スローガン

医療も介護も機能訓練も！繋がって最高のチームを作ろう！

令和6年度 年間総括

目標に対する取組・成果・実績	
目標1 医療を学ぶ。	①②③看取り指針の更新を行い、学習会にて「看取りについて」振り返り学習を行いました。 また、今年度は数年ぶりに消防の協力をいただいて実践的なAED使用、心肺蘇生法の実習を行いました。
目標2 褥瘡は早く発見・悪化させない・作らない。	①②③褥瘡の発生予防や、できてしまった時の対応は医務・リハ職・栄養士・ケアマネ・嘱託医等、多職種で協力して、最善のケアが行えるよう取り組みました。 その他、褥瘡について、外部講師（ネスレ）を招き、スキンテア（皮膚裂傷）について学びました。 体圧分散やポジショニングについて外部講師（モルテン）を招き、体圧分散のベッド体験を行いました。 外部講師（ひまわり）には、レスキューシートを学び、避難誘導時の適切なシートの配置見直しも行いました。
目標3 認知症ケアを学ぶ。	①②③ユマニチュードの視点から、認知症についての学習会を実施しました。 認知症ケアでは、現在取り組み中の自立支援介護の視点から認知症の方への対応などを学んできました。

年間総括

今年度、認知症の中核症状や周辺症状へのアプローチ、ユマニチュードなどの技術についての指導が十分にはできませんでしたが、特養の介護職2名が認知症リーダー研修を受講、修了することができました。次年度は認知症ケアの実践を進めていきます。
また、今年度は消防による心肺蘇生法の実技研修が実施できました。次年度以降も継続して、実施していきます。褥瘡ブレイデンスケール評価を活用した対策の検討には至っておらず、仕組み作りを含めて今後の課題です。

技術向上委員会

2024スローガン

自立支援を意識した、介護技術の向上と支援方法の徹底！！

令和6年度 年間総括

		目標に対する取組・成果・実績
目標1	排泄、入浴、食事介助等の知識、技術向上を行います。	①②③排泄パターンの記録・分析を行い、個々の排泄パターンに応じた、トイレ誘導やパット交換を行いました。排泄介助研修(外部講師による実技指導)を行い、適切なおむつ交換の技術向上を行いました。入浴動作やリフト浴の技術指導を実施し、入浴の見直しを定期的に行い、安心して入浴できる支援を実践しました。適切な介助時の声かけやポジショニング技術の学習会を行い、正しい食事姿勢や食事介助方法を指導しました。
目標2	ノーリフティングのボトムアップ研修を行います。	①②③ポジショニング・移乗技術の指導を定期的に行い、転倒リスクの軽減を図るとともに、利用者様の残存能力を活かした自立支援を推進しました。スライディングシートやリフト等の福祉用具活を配備し、積極的な活用を促進させてきました。また、移乗介助技術、体位交換などの技術指導を行い、介護現場での実践力を向上してきました。
目標3	福祉用具、負担の少ない身体の使い方を学びます。	①②③スライディングボード、スタンディングリフト、体位変換器などの福祉用具の使用法の指導を行うと共にボディメカニクスを活かした介助動作(移乗・移動・体位変換時の姿勢・重心の取り方)など身体の使い方の指導を行い、現場へのフィードバックに生かしました。

年間総括

日々のケアに必要な介護知識や技術の向上を目指し、食事・排泄・入浴について、個別ケアの質向上や職員間での技術の均質化を目的として、学習会の機会を定期的に実施してきました。学習会をしている中で、一部の現場では機器の使用に対する不安や技術力の個人差も見られたため、継続的な現場介入や個別指導の必要性があります。

また、導入機器の安全な活用や積極的な使用方法について、住民様ごとの適切な用具選定に関しての指導も課題として挙げられる為、次年度は新人職員向けのフォローアップ体制や、ユニット内での職員同士の技術力の均等化を図り、施設全体でノーリフティングを含む介護知識や技術力を向上させていきます。

自立支援介護委員会

2024スローガン

四つの柱で支える、健やかな自立。心身ともに輝く未来をお手伝い。

令和6年度 年間総括

		目標に対する取組・成果・実績
目標1	夢や希望を叶える目標に向かって取り組みます。	①特養・デイとそれぞれに、住民様・利用者様の思いに寄り添い、自立支援介護に取り組んできました。お寿司が食べたい・・・、旅行に行きたい・・・、等、それぞれの夢の実現に向けて手段としてケアを推進できました。 ②③些細な変化をも、記録に残し次なるステップに向けて情報共有を行い、定期的なケア会議を行うことでPDCAサイクルを回し、目標達成に向けて多職種で連携し合うことを怠りませんでした。
目標2	多職種がつながります。	①それぞれの専門職が、目標に向けて意見交換を行い、前向きな取組を実践してきました。 ②③3年目でもある自立支援介護の集大成として、学んできた基本ケアを軸に、自立支援対象事例者以外にも積極的に4つの基本ケアに基づいたケアを行うことができるようになりました。 認知症状の出現時にも、「なぜ？」なのかを根拠をもって考えることができるようになり、必要なケアを取り入れることで、周辺症状の緩和にも効果として自立支援介護で学んできたものがみられるようになりました。
目標3	自立支援介護理論の学びを深めます。	①1年を通じ、エキスパート・マイスターの研修を行ってきました。それぞれ、特養・デイ側とで、定期的にエキスパート保有者による勉強会を開催し、新人職員を中心に理論の学習会を開催しました。 ②③令和6年度のエキスパート受講者は全員合格しました！マイスター試験も合計5名が合格しました！ 今後は、更にエキスパート保有者を増やすために今年も勉強会の開催を、おきな杜のマイスター資格保有者を中心に行っていきます。

年間総括

おきな杜での自立支援介護の集大成の1年となりました。エキスパート・マイスターと、最終的に法人全体で約20名程取得することができました。今後は、この資格保有者を中心として、エキスパート受講者を増やし、おきな杜の自立支援介護を加速させていきます。
また、今年度マイスター試験を受講したスタッフは、基本ケアについての学習資料をそれぞれが作成し完成させています。この教材を社内ですぐ活用しながら機会があれば、外部でも取組事例の発表や自立支援介護について発信していけるよう、積極的に進めていきます。
今年からは、自分たちの足で自立支援介護を進めていく必要があります。それぞれで事例検討をする時間や、理論を学習する場を設け、自立支援介護をどんどん浸透させていきます！！

安全衛生委員会

2024スローガン

安全衛生委員会 Reborn！心も体も健康で意欲向上もborn(ホーン)とアップ！

令和6年度 年間総括

		目標に対する取組・成果・実績
目標1	腰痛対策。腰痛予防対策指針に基づく活動を基本から取り組みます。	①10月に腰痛検査をおこないました。84名受診し、医師の診察結果は「異常なし54名、要経過観察が30名」と3割を超える割合で何らかの異常があるということでした。 ②③法人では、ノーリフティングケアに取り組み、移乗ボード、Hugなどの移乗サポート機器も活用しています。腰痛が悪化しないためにも、日ごろからのストレッチや運動の重要性も伝えつつ、職業病といわれる腰痛予防対策に引き続き取り組んでいきます。
目標2	危険予知＝KY活動を推進するための手法を学び、安全の先取りを実践します。	①②毎年ストレスチェックを実施していますが、今年度も15名のスタッフが高ストレス状態にあるという結果が出ました。傾向としては、仕事量と人間関係がポイントとなります。そのため、各部署の上長が部下のいつもと違う様子を早く気づき、対処ができるよう、メンタルヘルスのラインケアを学びました。話を聞き、ストレスの要因の把握、改善に取り組んでいけるよう、学習しました。現場における危険予知活動の巡視ルールがまだ整っていないため、今後の課題とします。
目標3	職員の健康管理と職場環境の向上に取り組みます。	①②8月に職場環境についてのアンケートを実施しました。回答で多かったのは休憩の『場所』の不足でした。休憩が取れたとしても横になるなどしてくつろげるスペースが無く、改善を要求するものでした。そこでパーテーションを駆使し、完全ではないものの半個室状態にして休憩スペースを確保するなど、現場の要望に応えました。また、年に2回の健康診断では7～8割のスタッフが何らかの所見が見られる結果となり、引き続き職員の健康に留意し、元気に働き続けるサポートをおこないます。

年間総括

令和6年度の安全衛生委員会は、各所属長が代表として毎回の委員会に参加し、おこなってきました。職員が心身ともに健康な状態で仕事ができる環境となるよう、所属長が考え、意見を出し合い、取り組んできました。なかでも、効果的であったと思えるのは、「メンタルヘルスにおけるラインケア」です。日常の中で、どのように部下の変化に気づき、声かけをするべきかを学び、いち早く変化に気づき、相談対応、環境改善に取り組むことの大切さを学びました。健康診断の結果については、法人内の平均年齢が48歳と高くなってきていることもあり、相変わらず生活習慣病での指摘内容が多かったです。結果を見過ごさず生活習慣の見直しをおこなうことを呼びかけました。令和7年度は、参加メンバーが変わり、所属長は参加しません。毎月のテーマを持ち回りで学習会を開催するかたちに変えます。各メンバーがお互いを思いやり、いきいきと仕事ができる職場環境に整えていけるよう、取り組んでいきたいと思いをします。

生産性向上委員会

2024スローガン

本気の業務改革！システム、センサー、テクノロジー、ICT・・・イける職場になろう！

令和6年度 年間総括

		目標に対する取組・成果・実績
目標1	業務改善活動に向けたチームを発足！役割決めと課題の抽出をおこないます。	①4月に各部所属長が中心となり、令和6年度より加算として生産性向上推進が盛り込まれた意味や概要について、厚生労働省のホームページのポータルサイトをもとに勉強会をおこないました。 ②各部署にて「気づきシート」という名称のアンケートをおこない、全スタッフに業務改善が必要な項目について忌憚のない意見を出してもらいました。厚労省のガイドラインや全国の実践事例が参考にされたものもあれば、物理的に解決できないものもありましたが、少しずつ解決へと取り組んだ一年でした。
目標2	ロボット、センサー、ICT・・・機器の情報に高くアンテナを張り、システムに強くなります。	①②他法人、他施設への積極的な見学・訪問、意見交換をはじめ、使用している介護記録ソフト会社との連携を取ることで、多くの機器の情報を得ることができたものの、いざ、導入となると何が自分たちの施設にとって最適な選択であるかの決断が難しく、なかなかスピード感を持っての導入には至りませんでした。特養では、センサーの導入について、いくつかのデモ商品を試したうえで、眠りスキャンを導入、デイサービスでは、送迎シフトを組むのに時間がかかっていたためAIで送迎が組めるDRIVEBOSSを導入しました。
目標3	数値目標を5%とし、5%の削減、5%の効率化を目指します。	①②例えば、特養で導入した眠りスキャンについて、導入前後における細かな検証がまだ出来ていないのが現状です。その理由としては、導入したのちに、どれだけの生産性が向上したかのビフォーアフターを検証する術をスタッフが持ち合わせていないことが要因と言えます。効果の検証を文章にする、数値化することが出来るようになることが、最優先事項だと気づかされた一年でした。

年間総括

令和6年度に本格的に始まった生産性向上推進。以前より、業務改善、職場改善には取り組んできたものの、国の方針として、しっかり取り組んでいくことが明確化され、近い将来、介護職が間違いなく不足していく中で、いかに効率よく少ない人数で質を落とすことなくサービスの提供が継続的におこなえるかに真剣に取り組まねば、生き残れないという状況になっています。

特養・ショートでは、眠りスキャン等の見守りセンサーや移乗ロボット等の導入に力を入れました。デイサービスでは業務のムリ・ムダ・ムラを見直し、ペーパーレスや送迎シフトのAI導入などに取り組み、居宅・事務局でも事務系DXの推進に取り組みました。

また、契約している介護記録ソフト会社であるケアコネクトジャパンと連携し、利用者本人や家族とアプリでつながり、請求書や契約書等の電子化でのやりとりを開始するなど、今後さらにDX・ICT化を加速させていきます。